

特集「オープン勘定系」の発刊に寄せて

澤 田 啓

2007年5月8日、世界で初めてとなる Windows ベースのフル・バンキング・システム「BankVision」が百五銀行で稼働を開始した。汎用機による勘定系システムからオープンへの移行を模索する金融業界だけでなく、オープン・プラットフォーム上での基幹システムの開発に苦闘する IT ベンダー各社からも「本当に動くのか？」と大きな注目を集めたシステムである。このセンセーショナルな開発成功は、我々日本ユニシスグループが40年間にわたり継承してきたミッションクリティカル基幹システム構築に関するコア技術・ノウハウ、さらに先進技術への取り組み姿勢の結実である。

日本ユニシスは2008年度で創立50周年を迎えるが、金融分野において1967年汎用コンピュータによるオンラインバンキングシステム稼働に始まり、第一次オンライン・システムから第二次オンライン・システムへと金融機関のIT化の進展に歩みをそろえてシステムを開発、提供してきた。特に1993年稼働の勘定系パッケージ・システム「TRITON」、2001年稼働の地域金融機関向けの新勘定系システム・パッケージ「SBI21」、オープン・ミドルウェア「MID-MOST」の前身となった2001年稼働の三井住友銀行新対外系（BANCS）接続システムの3開発プロジェクトは、「BankVision」成功への礎となったプロジェクトである。

「TRITON」は、当社では初めての百五銀行・紀陽銀行・当社の3社による共同開発、金融分野では未経験の1万人月を超える大規模分散開発、ホスト・システム（UNISYS 2200/900）の新アーキテクチャー採用等々、初めて尽くしのプロジェクトの中、技術の蓄積とチャレンジにより、ノンストップ金融勘定系システムを実現した。

「SBI21」は、勘定系業務の分野では業界で初めて分析・設計工程にオブジェクト指向技術を採用し、オープンな Windows ベースの環境でサブ・システム単位に開発・保守が可能である斬新なシステム・アーキテクチャを実現した。

BANCS 接続システムでは ES7000 + Windows2000DCS の組み合わせで24時間365日無停止稼働のミッション・クリティカル・システムを実現した。この汎用コンピュータ並みの信頼性・可用性の実現には、ブラックボックスとなっているオープン・プラットフォーム上での技術リスク解消にむけた検証等が必須であり、マイクロソフト社との間に構築された強固なアライアンスが決定的な成功要因であった。

以上のように、日本ユニシスは、オンラインバンキングシステムのコア技術に加えて、各種新技術の採用と大規模分散開発技術の最新情報技術環境への継続的融合によって、金融業界の自由化への変化と情報技術のオープン・システム環境への急激な変化に対応するソリューションの開発・拡張を進めてきた。そのチャレンジと努力の集大成がオープン・システム環境でのフル・バンキング・システムの実現であり、システムの本質はメインフレームでもオープン化された技術でも、変化することはないという信念を一層揺ぎ無いものとする事ができた。

2 (2)

本特集号では、「BankVision」開発で実行してきたプロジェクト管理・基盤技術・ソリューション開発などの新技術を採用した大規模システム開発プロジェクトへの取り組み方、最新技術で実現されたソリューションの概要などを紹介している。金融関連のシステムに関わる方々はもちろんのこと、システム開発の品質・生産性・納期に立ち向かい、努力されているエンジニア、企業の情報システム利用部門の方々の今後の取り組みの一助となれば幸いである。

(常務執行役員 SW&サービス部門長)